

Rotary



白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

創立 1986 年

2022～2023年度クラブ目標

『想像しよう、未来のロータリー
創造しよう、これからのクラブ』



イマジン
ロータリー

会長 高 畠 裕
幹事 車 田 裕 介



2022～23年度国際ロータリーテーマ

第1735回例会

令和4年11月17日(12:30～13:30)

○ソング

- 我等の生業

○ビジター

YEG会長 和知健明様 ジロ・デ・シラカワ 事務局 緑川順子様

○スマイルBOX

●高畠裕会長(和知様、緑川様、本日はありがとうございました。また、地区大会に参加された皆様ありがとうございました。今後のクラブ活動に活かせればと思います。)

●車田裕介幹事(昨日は誕生日のお祝いを頂きましてありがとうございました。また、先週末の地区大会に参加された皆様、大変お世話になりました。金田パスト会長、高畠会長、会津ナイト大変お世話になりました。ありがとうございました。)

●遠藤敦会員(結婚記念、お祝い頂きましてありがとうございました。11月19日で50年を迎える事ができました。妻に感謝しています。子供達を素直に育ててくれました。記念日は、会長のお店で二人で食事をしたいと思っています。)

●永野文雄会員(YEG会長 和知様、事務局 緑川さん、「ジロ・デ・シラカワ」の成功おめでとありがとうございました。中目委員長さん、卓話ありがとうございました。)

●金田昇会員(今年度の地区大会に参加してきました。とても有意義で楽しかったです。来年はより多くのメンバーで参加しましょう。)

●永山龍太郎会員(多くの皆様のおかげで、オーダー会は無事終える事ができました。本当にありがとうございます。出来上がりまでしばらくお待ちください。)

●中目公英会員(ロータリー財団の卓話をさせていただきました。会員の皆様よりの寄付の申出をお待ちいたしております。)

▶第1735回例会出席状況 (R4年11月17日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	52名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	66名
Ⓒ ①の出席者数	25名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	6名
Ⓕ ②の出席者数	9名
Ⓖ = Ⓒ + Ⓔ + Ⓕ (メイクアップ補填後の出席会員数)	40名
Ⓗ = Ⓓ - (Ⓑ - Ⓕ)	61
Ⓘ = Ⓖ / Ⓗ × 100 (例会出席率)	65.5%

11月理事会報告

1 歴史文化研究愛好会

(12/1開催予定 担当例会について) : 藤田龍文
会員上程

→審議可決(添付資料参照:移動例会のため、出
欠は細目にとって進めるとのこと)

2 親睦活動委員会

(12/8開催予定 クリスマス例会について) : 大
住由香里会員上程

→審議可決(添付資料参照:特に協議内容なし)

3 「ガキ大将プロジェクト実行委員会」より名義後
援依頼:佐藤幸彦会員上程

→審議可決(通例の名義後援なので通例に沿って
名義後援を行う。)

4 その他:特になし

▶例会日:第1・第3木曜日(12:30) その他の木曜日(18:30～19:30)

▶例会場:白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局:〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5(白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間



高島裕会長

皆さん、こんにちは。まず、お客様のご紹介でございます。白河商工会議所青年部会長、和知健明様。それから、ジロ・デ・シラカワ実行委員会事務局の緑川順子さん。本日はお二人はこの後、ご挨拶をいただくということで、先日のジロ・デ・シラカワのお礼ということで今日は来ていただきました。

なかなか和知会長におかれましては、お仕事のほうが忙しくてこの間のゴルフもちょっと全国大会で来れなかったと伺っております。今日は和知会長もいらっしゃってということで、ご挨拶を一言述べたいということで、決算報告も含めて今日は来ていただいております。さて、会長の時間としては先週の12日(土)13日(日)、会津と喜多方の地におきまして、2530地区の地区大会が開催されました。我がクラブからは、金田パスト会長、それから吉野パスト会長、そして十文字会員、そして車田幹事と私の5名。当初、中目パスト会長も出席予定だったんですが、ちょうど時期が七五三ということで、大変忙しい時期であったので、都合が付けばということであったんですが、やっぱり七五三のほうはどうしても手が間に合わないということで、残念ながら欠席ということになってしまいました。その場で我がクラブ、白河西ロータリーは千人くらいの会員の皆様の前で、昨年度鈴木孝幸年度の分として優秀会報賞、それから奉仕活動賞、マイロータリー賞ということで、壇上にてガバナーよりプレートを受賞させていただくことができました。本当に皆さん、いろいろお世話になりました。ありがとうございました。二日間に渡った地区大会だったんですが、初日12日の土曜日は会長会議がございまして、ここで3年後のガバナーをどういう方法で決めるのかという会長の投票というのがありました。それから、その方法。どなたがその方法を決めるかという投票がありました。その後、R I 会長こちらが隣の2520地区の仙台泉ロータリークラブのパストガバナーであります菅原裕典さんという方で、奥さまと共にR I 会長代理ということで来ておられました。素晴らしいお話もいただいたというふうな記憶がございます。その後に、R I 3350地区のガバナー。こちらタイのエリアなんですけど、タイとかミャンマーとかあの辺全部ひとまとめにしているエリアらしいです。そこのガバナーをされてる飯田さんという方がいらっしゃって、日本の国際化とロータリーの現状というふうなお話をさせていただき、その日の夜はR I 会長代理晩餐会ということで

進んでいった次第でございます。我々クラブのほうは私と車田幹事で会津のほうに泊まりまして、ちょっと会津の夜を楽しんでこようかなと思ったところに金田パスト会長が混ざってくださりまして、金田パスト会長のご案内で夜の若松市内を楽しんでまいりましたということで、本当に実のある一日となりました。次の日が、朝8時から登録が始まりまして、こちらエクスカッションがあったり、あるいはクラブ表彰があったりということでありました。この日は会津の下郷の皆さんで形成されてる、よさこい関係の素晴らしい踊りを披露されてる方々「郷人」というグループなんですけど、こちらの方々が80人くらいが壇上で踊っていただきました。素晴らしい内容でございました。機会があれば白河のほうへ来ていただいて、皆さんにご覧になっていただければと考えております。また、その場でその「郷人」の渡部一さんという代表の方も、喜多方の佐藤正道ガバナーにこういった方がロータリアンになってくれるとありがたいんだというふうなお声がけをいただいたところ、即答で「わかりました。入ります。」ということで、入会するというような形で会に入るというふうなことがございました。そんなことで、大変実のある二日間になりましたし、また何年か後に県南地方にもしかするとガバナーが排出されるというような機会が来ると思います。そういった時のために、こう下見じゃないんですが、覚えておくためにも参加して良かったなというふうには感じております。来年は福島が会場になると思いますので、是非一人でも多くの方に地区大会に参加していただき、楽しんでいただいたほかに、ゆくゆく将来のために皆さんに流れだったり段取りを覚えていただければなと感じております。クラブの皆さんのおかげで壇上で表彰されたということは、本当に感謝すべきことかなと感じております。今後とも皆様のご協力、ご支援を賜りながら会の運営続けていきたいと思っております。また本日、中目財団委員長から素晴らしいお話があると思っております。特に新人の皆さんに聞いていただきたいようなお話が沢山あると思っております。どうぞ中目財団委員長、よろしくお話ししたいと思います。

■幹事報告

車田裕介幹事

- 米山記念奨学会事務局長 柚木裕子：ハイライトよねやま272号
- 比国育成会バギオ基金会長 浅田豊久、総務担当副会長 斎藤実：「バギオだより」配布のお願い
- ロータリー日本事務局クラブ・地区支援室：第2回クラブ・地区支援室メッセージ (2022-23Q2)
- ガバナー 佐藤正道：計報

「さあいこう！白河Project」実行委員長
白河商工会議所青年部会長

和知健明様



皆様、こんにちは。本日は皆様の貴重なお時間いただきまして、ご挨拶をさせていただきます。令和4年度白河商工会議所青年部会長を務めております和知健明です。今回は、「さあいこう！白河Project」の実行委員長としてご挨拶に伺わせていただきました。これはジロ・デ・シラカワの運営実行委員会でございますけれども、起ち上げてから歴代白河商工会議所青年部の会長が実行委員長を務めるという形をとらせていただいております。この西ロータリークラブさんには、多大なご協賛をいただきまして、また当日も最高速度計測器のコーナーを皆様に運営いただきまして、お陰様で無事イベントを終了することができました。重ねてお礼申し上げます。このジロ・デ・シラカワというのは、白河商工会議所青年部、今年で40周年なんですけれども、この10年前30周年の時に高島会長が実行委員長で起ち上げた事業でございます。今年はその記念べき40周年で、とはいっても実は2019年に台風が直撃をしまして、その年中止にせざるを得なくて、その後は今度はコロナになって実に4年ぶりの開催となりました。久しぶりではあったんですけれども、毎回開催するごとに怪我人等は多少出るんですけれども、今回も大きな事故等は無く無事終えることができました。参加者は271名。コロナ前と比べますと100名程減ってしまっているんですけれども、ご参加いただいた皆様からは是非ともこういうふうに町中を走れる事業というのがないので、続けてほしいという声を多数いただいております。今回は皆様にお礼文と、あと決算報告書を提出させていただきましたので、後でお目通しいただければと思います。では、ここで事務局の緑川より一言ご挨拶させていただきます。

ジロ・デ・シラカワ実行委員会事務局 緑川順子様



こんにちは。本当に当日、多大なご協賛いただきまして、ありがとうございます。昨日、ようやく決算のほうが出来上がりましたので、ちょっと大きなところだけ金額だけ申し上げます。金額が収入の部1,321,000円。15,322円が次年度の繰越金ということで余りました。先程、和知のほうからも申し上げましたけれども、今回参加者が少ないというところで、参加費が例年より何十万か下がってしまったというところで、本当は私も決算やりながらハラハラしてんですけど、若干ですけど繰り越すこと

ができ、また来年これを元手にやればいかなというふうには思っております。先程、和知のほうからもありましたが、高島会長が実行委員長、30周年の実行委員長で、私が30周年の企画室長というのをやっていたんですね。その時に何か記念事業としてできないかというところから、このジロ・デ・シラカワが始まったわけなんですけれども。その時、30周年に式典の企画もしなければならぬ。それで改めて、このジロ・デ・シラカワも考えなければいけないという中で、私のお腹の中に命が芽生えたんですよ。こんな時になってちょっと思ったんですけれども、その時41歳でございました。本当もう気持ち悪くて気持ち悪くて夜な夜な皆さんと会議をしながらも、でもなんか言えなかったんですよ、こう妊娠していた事を。やはり、高齢でしたし、何かそういうので気を使われるのも嫌だったというところもあって。毎晩毎晩ちょっと煙い中で会議をした記憶があります。駅前を止めるということも、すごく警察のほうから反対をうけて、それでも何とか近隣住民の同意をとりながらOKをいただいた。本当に思い起こすと、苦勞というふうには思っていないんですけど、本当にできて良かったなと思います。そして、その最初の年からロータリーさんには、豪華なたさぶろうセットを参加者全員に振る舞いというご協賛をいただいたんですね。もう本当、それが参加者もすごく楽しみの一つであって、毎年その参加賞としておにぎりを配るというふうにやらせていただいたんです。ただ、今年はどうしても金銭的な都合でおにぎりではなく市内のパン屋さんのパンを配ることにさせていただきました。ということで、本当にロータリーさんの支えがあってこそこのジロ・デ・シラカワだなというのをすごく感じております。本当にありがとうございました。今後とも、よろしくお願ひします。

■本日のプログラム

ロータリー財団委員会担当例会

○ロータリー財団委員会

中目公英委員長



皆さん、こんにちは。11月はロータリー財団月間になってるというふうなことから、プログラム委員長の藤田さんのほうから財団委員会担当で例会をしろというふうな命令が下りまして、本日を迎えました。昨年は、矢田部財団委員長さんが地区の財団の林克重さんをお呼びいただきまして、詳しく財団の事について卓話をいただいたところであります。今年は、地区の田久委員長でも呼ぼうかと思っていたところではありますが、西クラブの財団に対する理解度のレベルと、地区の財団委員長の田久委員長のレベルがあまりにも違うので、今日は西クラブの財団に

対する理解を多少深めるような話をしようというふうなことで、私のほうが卓話をさせていただきたいと思えます。ロータリーの財団についてのお話をさせていただきます。高畠会長のほうから、新入会員にもわかるようにというふうなことから、少し簡単に復習をしたいと思えます。ロータリー財団というのは、ここにありますように寄付を受け取り、ロータリークラブや地区の人道的、及び教育的活動でロータリー財団が承認したものに補助金を提供する非営利法人というふうに定義されております。この言い出しっぺの人は、ロータリアンであれば必ず覚えてもらいたい名前ですけども、6代目の国際ロータリーの会長のアーチ・クラフ、この人がこの財団を作ろうと言い出した方です。このアーチ・クラフという方の名前だけはまず最初に覚えてください。そのアーチ・クラフの言葉がその下に書いてあります。お金だけではたいしたことはできない。個人の奉仕はお金がなければ無力である。この二つが組み合わされば、文明への天の恵みとなることができる。こういうふうな言葉のもと、人道的、教育的な活動に対してサポートしましょうというので、財団ができたというわけです。財団の使命というのは、これも規定委員会のほうで決まっております。ロータリアンが人々の健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることであるということが使命になっております。この使命を簡単な単語で言うと、その下に赤で大きく書きました「Doing Good In The World」。このアーチ・クラフという人の名前と「Doing Good In The World」。これはロータリアンは必須単語でありますから、新入会員の皆さん覚えてください。アーチ・クラフ、「Doing Good In The World」。日本語で言うと、世界でよいことをしよう。これが財団の大きな使命になってるということでもあります。この世界の中でよいことをしようというわけですけども、お金はロータリアンの寄付によりまして、その寄付で世界でよいことをしようということ。ということは、財団の活動というのはまず寄付金を集めるほう、ファンドレイジング。寄付金を集めるというほうは、これは我がクラブでいうとクラブの財団委員会。金集めのほうをやれというふうなのは、クラブの財団委員会です。その寄付を世界のためによいことをしようというために寄付を使うほう、こちらのほうはいわゆる奉仕プロジェクトというふうな形で、担当するのは青少年奉仕委員会であるとか、社会奉仕委員会であるとか、国際奉仕委員会というふうになります。高畠年度、第一小学校で食育のプロジェクトをしますけども、この担当は社会奉仕委員会が担当になってるわけですから、寄付金を使うほうはこの奉仕プログ

ラムの担当の委員長さんが頭をひねってもらう、この二つがあるというわけです。私は財団の委員長ですから、あんまり言いたくないですがお金を集めるほうの担当だというわけでありまして。このお金を集めるほうには種類がありまして、年次基金寄付、恒久基金寄付、ポリオ基金寄付、災害救援基金寄付というふうな形で、大きくこの4つがあります。一番ポピュラーなのが、年次基金寄付です。クラブが実施する地元や海外における奉仕活動を支える主な財源です。その次、恒久基金寄付といいます。その基金のものは使わないで、運用した運用益だけを使うというやつです。一回恒久基金に寄付をすると、ずっとクラブで使えるようになります。残念ながら西クラブでこの恒久基金に寄付をした人は未だ二人しかいません。林さんと斎藤惣三郎さん。これしかない。非常に地区の財団のほうから見ると、西クラブさん60人もいて恒久基金二人しかいないんですかみたいな形で、冷たい目で私は見られています。ポリオ基金、こちらのほうも大変悲しい話ですけど、我がクラブはあんまり積極的ではありません。ポリオを根絶しようというのは、ロータリアンの大きながんもくの一つになって、もう間もなく世界からポリオがなくなる一歩手前まで来ているわけですけども、その後もう一歩の一押しができない状態が続いてるわけでありまして。災害救援の基金は、この前の福島県の東日本大震災の時に、多くの地区から世界のロータリアンからももらったこともありますし、現在は皆さん方の寄付の一部がウクライナに行っていると。こういうふうなの寄付になってるというわけでありまして。今話をしましたから、年次基金、恒久基金と、あとポリオプラスの話をしましたが、その他にロータリーカードとのがあるんですけど、我がクラブではロータリーカードというのは作っていません。できればロータリーカードを作ってもらって、その利用すれば利用するほど財団のほうに寄付が行くというふうになってるというわけでありまして。R Iのほうは、取りあえずこのくらいロータリアンだったらやってくださいという目標が決まっています。これはほとんど毎年変わっていません。年次基金に対して、一人150ドルお願いします。恒久基金に対しては、クラブで一人1,000ドル出す人を毎年一人お願いします。私たちは37年目を迎えるわけですけど、残念ながら二人しか出してないわけですね。ポリオプラスに対しては、できれば一人30ドル出してくださいというふうに言われているというのが地区の目標です。この目標が達成しないとロータリアンじゃないというわけはありませんけど、取りあえずそういうふうになっていて、我がクラブ65名で換算すると一年間に12,700ドル。これを国際ロータリーのほうに寄付してくれるクラブと西クラブは思われてると、そういうふうになっ

ているというわけでありまして。これに対して現状、これは鈴木孝幸年度です。わかクラブは一人当たり78ドル10セント、これは細則を規定しまして一人50ドルづつ出すように改定したのですけれども、残念ながら1,000ドル出す人が3人くらいいても、一人当たり換算すると78ドル。ですから、地区の目標の半分ですね。ベネファクターはゼロです。ポリオもゼロです。年次基金は一銭も出してないクラブというのは2530地区、今のところゼロクラブになってるんですけど、63クラブ。ポリオ基金に対してゼロですというのは、西クラブをはじめと案外多くいるというわけでありまして。鈴木孝幸年度の実績は全部合わせると、クラブとすると6,250ドル。12,500ドルの大体半分くらいしか我がクラブは出してない。そうすると、この間佐藤正道ガバナーが来た時に、西クラブさんもう少し出さないと駄目なんじゃないのっていうふうに、ガバナーから言われちゃうというわけですね。そういうふうな現状に残念ながら我がクラブは今、直面している。この事をまず認識してもらいたいなと思っています。もう少し詳しく書いたのがそれです。大体6,450ドル足りませんよと。ですから、クラブの会長になる人は頑張ってくださいというふうに言われてるというわけですね。地区のほうは1,000ドルですから、会員10名につき我がクラブのように1,000ドル出す人だけ人を集めようとすると、10名につき一人。つまり、65名いるということは今財団委員会に課せられている使命は3人集めろというふうに言われてますけど、地区のほうは65人いるんですから6人として集めろと言われてるという意味であります。ベネファクターについては、地区のほうはできればパスト会長経験者の皆さん方、一回1,000ドル寄付してください。そうすると、運用益はあなたのクラブの使えるお金にプラスアルファになりますよというふうな形で推奨しているというわけがあります。ですから、林さんと斎藤惣三郎さん以外のパスト会長の皆さんはベネファクターを是非考えてください。とりあえず今年度、私が3番目の人身御供で1,000ドル出しました。それから、ポリオデーについては、できれば30ドル。10月23日が世界ポリオデーなんですけれども、残念ながら我がクラブはそれについてなかなかやっていませんから、この点についてもできれば考えてもらいたいと、地区のほうでは言ってるって現状です。これが2530地区全部内情見せちゃうと問題になりますから、県南分区だけの西クラブの成績表です。私の年度と吉野さんの年度は一人当たり100ドル超えたんです。これは何でかという、先程言ったように細則で50ドル出すようにしたから。これは成井さんと山口さんと鳴島さんが何とかしなくちゃいけないということで、細則に50ドル出すようになったんですけれども、吉野年度会員増強しちゃいました

から、40名から50名だと思って一人50ドル出して大体150ドルに満たなくても100ドルくらいでいいだろうと思ってたのが、50名代から65名まで会員数増やしちゃうたものですから、78ドルまで減っちゃってるんですね。ですから、できれば、これは高島年度だけではなくて、おそらく佐藤幸彦さん、阿部克弘さん、それからその次の我がクラブでは40周年になるくらいまでの間に、会員増強すると地区の目標が減っていくというシステムはおかしいので、何とか財団に対する協力の仕方の西クラブのシステムを変更しないといけない。会費から50ドル出すというのはこれはいいとは思いますが、その他の100ドル分これは何とか一人一人から頂戴をして、1,000ドル出すポール・ハリスはいたらば御の字というふうな、そういうシステムに変更しないと、会員増強すればするほど地区の財団の我がクラブに対してお願いされてる金額から目減りをしていくと。こういうふうな悲しい現状になっているというわけですね。ひとつ地区の財団委員会はここまで厳しいことは言いませんが、我がクラブの財団委員長ですから西クラブの現状に合わせて、宮本先生のビジョン推進委員会なんかを中心になって、我がクラブの財団に対する協力の仕方はどういうふうにしたほうがいいのかということをもう一度考えたほうがいいのかもできません。ロータリーの財団なんか寄付しないで、自分たちで集めた金自分たちで使えばいいんじゃないというふうな考え方も成り立ちますので、どこがいかのその中間の点の落としどころを今後考えていかなければいけないというわけでありまして。それがお金を集めるほうですね。現在の西クラブの現状と、地区の国際ロータリーのほうから我がクラブに対して求められているところの、その差が案外大きいんですというふうなことをご理解いただいたんじゃないかと思えます。

今度は寄付金を使うほうです。大体、今、先程の一番初めのロータリー財団と使命の教育的なもの、人道的なものに使いましようと言ってますけど、具体的に財団の補助金のプログラムというのは、ここに書いてあるようにグローバル奨学生、これは大体地区で一人です。あと地区補助金奨学生。これも地区で一人です。現在、田村市の先崎さんという人がイギリスに行っています。一年間で10,000ドル以上寄付金を、2530地区からその先崎さんという女性のイギリスに留学してる人にお金を出しています。そのお金の一部に私たちが寄付してるお金が使われています。ロータリー平和フェローというのが、これはなかなか使いにくいです。ICU国際基督教大学の国際政治学科あたりに行ってるような大学院の人じゃないと補助金をもらえる対象になってませんから、現実問題はこれはなかなか少ないんですけど、グローバル奨学生は今現在

地区でも一人出していますし、地区の補助金の奨学生も現在一人出していて、一人10,000ドル以上のお金をその個人の人、一人に対してサポートしている。なかなかこんな事言う人もいませんから、私たちの財団のお金何に使われてるかわからないと思うんですけど、実際私たちが出した財団のお金はそういうふうな形の奨学生の教育支援のために、実際問題多額のお金が使われているというふうなところになっています。人道的なほうはグローバル補助金。これは我がクラブでは、ハードルが厳しくて、今のところやっているところがありません。あと、地区の補助金。これはここのところ2年3年続いています。孝幸年度が二小に楽器を寄付するのに使いましたし、高島年度は一小の食育で使うようになっています。現状、後から喋りますが3年前の四分の一が使えるというふうなのが、基本的に考え方の基本なんですけど、西クラブの地区の目標の半分くらいしか寄付をしていない現状だと、大体地区の補助金は20万位貰えるようになります。20万の地区の補助金を貰うためには、自分たちで持ち出し金を現状半分出さないといけないので、自分で半分20万出し地区の補助金20万出しで、大体40万から50万位の事業を考えると財団のほうから半分お金が貰える。是非、これをやってもらいたいなというふうなことで、鈴木孝幸年度と高島年度はうまくいっている。この次は、佐藤幸彦さんが頑張ってもらわないといけないというふうなところになっているというわけです。あと、災害救援資金は先程言ったように、ウクライナに使われている。大規模奉仕プロジェクト、これは全世界で一つしかないんです。300万ドル規模の事業じゃないと補助金対象になりませんから、これは我がクラブでは現実的にほとんど考えなくてもいいかなというふうなところです。あとは、ポリオプラス。これはこの間、ニューヨークでポリオが出たとかいうふうなことで、コロナ禍の中アフガニスタンくらいにしかポリオはないとかって今まで言っていたんですけど、大都市圏でポリオが発生したという事案が出てまいりまして、もう少しポリオについて撲滅頑張りましょうというふうに現在ロータリーでは言っています。それに対する内容は、一番私たちにとって身近な地区補助金というのは、ロータリーというのは単年度制であるにも関わらず、補助金は二年度制になっているという、この変な制度の行き違いがあるものですからなかなか使いづらい。つまり、佐藤幸彦さんが今一生懸命考えないと自分の年度でお金使えない。ですから、今、幸彦さんに一生懸命頑張ってもらって、幸彦さんが自分の会長の時に事業に使うという事をしないといけない。これがなかなか大変なところです。あと、グローバル補助金も65名を超えるような我がクラブであれば、一回チャレンジしてもいいでしょうというふうに地区のほうか

らは思われてるような形です。その代わり、事業規模が最低3万ドルです。ですから、案外大きいところ。それから、国際関係ですから相手国のロータリアン。皆さん方得意のフィリピンのロータリアンとお友達になって、フィリピンの恵まれない子供たちに対して事業をする時に、そのフィリピンのロータリアンを通じてやるというふうな形で、二か国のロータリアン同士がやれるということと、お金一回やった後、補助金終わった後もその事業が継続する。持続可能性というのが、現在ロータリーでは求められています。先程言っていましたロータリー財団というのは、シェアシステムという名前のものに使われています。3年前の年次基金と恒久基金の投資収益をもとにして、その半分半分をDDFとWF。地区財団活動資金と国際財団活動資金に分かれていて、その半分の地区財団資金の更にそのまた半分地区補助金が貰える。ですから、3年前の四分の一。60万、我がクラブは大体毎年財団に寄付していますから、その四分の一の20万円位が貰える。その20万円を活用するような事業をしましょうというふうなシステムになっているわけでありまして。じゃあ、そうすると60万円のうち20万だとすると、あと残りのその他のお金何に使ってるのか。先程言いました地区の補助金に使っている。その他ロータリー財団が基本的に管理しているものですから、志賀ガバナー年度のはまだ結果が出てないんです。もしかすると、私欠席だったこの間の地区大会の会長幹事会の決算でこの報告が出てるかもしれませんが、私の手元にはないのでその前の年度、石黒ガバナー年度、四分の三は何に使ったかというやつですね。四分の一は我がクラブの地区で自分の地区補助金で使いましたが、その他の四分の三は何に使ったか。これを見ると、フィリピンの人たちのフェイスシールドを沢山買うのにそのお金使いました。それから台湾の献血車、これを買うのにお金を出しました。あと、スリランカの母子の健康のため。おそらく子供の致死率がまだ高いので、その子供さんたちの健康状態を維持するようなための事業に使いました。あと、この日本の疾病予防と治療というのが多いというのは、これコロナ禍だったので自分の国の中のコロナ対策のために使ったというわけですね。あと、ルワンダの水と衛生。つまりは、井戸水を綺麗にするような浄化槽システムを作ったりするような事業をやるのに対して、四分の三はお金が使われてるというわけでありまして、四分の一しか出さないんだから、財団になんか出さないで自分たちだけでお金集めて自分たちだけでやっちゃえばいいだろうという考えの他に、その他に部分はこのような形で、どこの何に使うかというのはガバナー権限ですから、我がクラブから早くガバナー出してもらえれば、この四分の三を何に使うかという権限があるんですけど

ど、残念ながら今のところ我がクラブにはないので、ロータリアンの地区の役員の方々の人間性を信用しているわけですけれども。石黒年度はこのような形で、四分の三がWF国際財団活動資金で使われている。まさに、これがアーチ・クラフが言っている世界でよいことをしませんか。そのために寄付してください、ロータリアンの皆さんと言っているわけですから。お金が自分に戻ってくるのが少ないからというふうな考え方と一緒に、このような形で世界のために使われてるんだらば、ロータリアンとして大したものだろうというふうな形で、沢山出してもいいんじゃないのかなというふうなことです。これは基本的には、もう幸彦さんのためだけに喋っているようなものです。12月3日に、補助金管理セミナーがあります。義務出席は、幸彦さんと幸彦さん年度の先程言った社会奉仕委員会の委員長、国際奉仕委員会の委員長、青少年奉仕委員会の委員長になる人。まだ決まっていなければ、今年度の方々が義務出席。私は地区の財団の委員として出席しますから、運営する側なので行ってくれるんだらば山口副委員長のほうにでも一緒に行ってもらえればと思っています。もう出欠の案内は車田幹事のここに来ていますから、早めの人選を幸彦さんにしていただいて、地区のほうに出席の返信を出してもらいたいと思います。それで補助金の貰い方のセミナーを受けてきますと、年が明けた1月の末までに覚書MOUというやつをロータリー財団と結ばないと補助金が貰えません。ですから、MOUを出すくらいまでは何とかある程度、事業の概要くらいまでは決めとかなないといけないというわけでありまして。幸彦さん、わかりましたね。3月の末、幸彦年度まだ始まっていませんが、3月末までにある程度の事業概要固めて財団のほうに申請しないと、財団のほうの補助金が貰えないというわけでありまして、もう幸彦さんの年度は始まっているということでもありますので、是非お願いいたします。補助金を使っていいというのは、ロータリー財団の承認を得てから事業を行うことになっています。高島年度の食育のやつは、財団の承認が得ていますから早めに高島年度の財団の事業してもらわないといけません。事業した後、けつは5月1日になってますけど、大体1か月後くらいまでの間に財団のほうに対して報告書を提出しないといけないということでもありますから、今年度の高島会長には早めの事業の実施と早めの報告書の提出をお願いをしたいというふうなことであります。佐藤幸彦さんが何やっていいんだかわからない、どうするのっていった場合には、私のほうにお声がけをしてもらえれば、2530地区でどんなお金を貰うような補助金の事業をやっているかのほうがわかります。これも地区全体を言うと時間が無くなってしまいますので、我が県南分区だけ言い

ますと、西クラブ以外で財団に対して補助金申請したのは、石川ロータリーと須賀川ぼただけです。これ両方ともそれぞれの地域の学校に本を送りましょうというふうな運動をして、そのために申請をしているというわけです。本当は、常連は県南分区でロータリー財団の地区補助金を使うの一番上手かったのは白河ロータリーさんなんです。西クラブでは、会長エレクトが主体的に事業を考えてもらって、MOUを来年1月に締結をし、3月の末までに事業計画を立ててもらおうというふうなことを、できれば毎年必須でやってもらったほうがいいんじゃないのかなと思っていますから、大体50万～60万の事業を検討していただければと思っています。我がクラブのこれまでの流れだと、小学校に楽器を寄贈するであるとかというふうな形ができる。あと、同一事業が続けて申請できないんですけど、同一事業でもやる相手が違うと多少2年間くらいは補助金が貰えます。つまり、楽器を送るといっても今年は例えば一小さんに送ったけども、来年は一年間位あけてその次の次の年度くらいに、三小に送りますよとかいうんだと違う事業というふうに認められますから、全然問題なく可能だと思います。今年度、孝弘さんのほうで楽器を第三小学校に送るというふうな形で、これは自前の西クラブの自主財源でやるわけですけれども、来年どっかの器楽クラブにやる場合には、孝幸年度から一年空いてますから、全然問題なくおそらくロータリー財団のほうの承認は得られるんじゃないかと思えますし、もっと言うならばCKBも青少年奉仕委員長の時、喋りましたがあれは社会奉仕事業なので、あれも3月までに事業計画を立てて出せば、おそらく来年だったら補助が通ると思いますから。我がクラブで10万、青木先生に出すばかりじゃなく、今年は地区からもお金が出ますから来年賑やかにしましょうとかというふうなことを考えるのであれば、今から考えればおそらく全然平気で貰えるというふうに思います。実際、二本松ロータリーあたりは、我がクラブと同じような地区の中学校の野球大会に対して、その地区の補助金をロータリー財団の補助金を使って、毎年はできないので何年かごとに、その地区の補助金を貰って同じような事業をしているというふうな事例が実際ありますので。そういうふうなことを考えれば、会長になったからってゼロから必ず新しい事業考えなくても、地区の補助金が使えするというふうな形になりますから、うまい方法でせつかく60万近く現在お金出してるわけですから、そのうちの応分のものをお返ししていただいて、我が地元の地域の発展のための人道的な、あるいは教育的なプログラムに対して使うというのは、ロータリアンとしてやったほうがいいし、やらないといけないのかなと思えるような形になっているというふうなことであります。これが現

状です。先程言いました。これに対して提案をしようというわけでありまして。国際ロータリー、ジェニファー・ジョーンズ女性の会長は、そして今年度の佐藤正道ガバナーも、我がクラブはほとんど協力していないポリオプラスに対して本当に注目をしています。この間、ジェニファー・ジョーンズさんは地元ニューヨークでポリオが出たということもあったんですけども、1億5千万ドル、これをポリオのために寄付しますというふうに表明しました。国際ロータリーが表明したという、この1億5千万ドルのうちの10ドルか20ドルか40ドルかわかりませんが、我がクラブのお金も入っているというわけでありまして。佐藤正道ガバナーは今年度、四分の一が地区補助金ですけど、その他のもう一つの四分の一の地区の財団補助金というのがあるわけですけども、DDFの残りの四分の一のその20パーセントをポリオプラスに寄付をするというふうに表明をしました。このポリオプラスに地区が寄付を出しますと、マイクロソフトのビル・ゲイツ財団のビル・ゲイツ&メリング財団のほうで、更にプラスアルファしますから。例えば、佐藤正道ガバナーが地区の財団補助金でもって1万ドル寄付しますといった場合には、ビル・ゲイツ財団のほうから1万5千ドルがタダであなたやるんだしたら私も出しましょうと行って、両方合わせて3万5千ドル、ポリオプラス基金に結局2530地区でやりました。半分以上、ビル・ゲイツ財団のお金も2530地域のポリオがやりましたというふうな名前でもって基金に寄付ができるというふうな形になっているのであります。我がクラブも是非このポリオプラス。現状一人0円しか出してないんですけども、年次基金は150ドルのうち3分の1の50ドルを会費から出すようにしていますから、30ドルのうち3分の1の10ドルくらいは、もし皆さんよければ会費から出すようなそういうふうなシステムをして、あと残りの三分の二、年次基金の100ドルとポリオプラスの20ドルは皆さん方の自主的な寄付の申し出でもってやるというふうな方向で考えるのが、西クラブにも健全な発展のそのひとつ進むことになるのではないのでしょうかというふうな提案であります。これを考えるのは、高嶋会長と佐藤幸彦次年度であります。そのために、私のほうから更にもう一つ詳しい提案を申し上げさせて、これは成井さん、山口さん、鳴島さんの後に私が多少入れ知恵をして会費からお金を出すようにしたんですけど、それと同じように12月の年次総会において、高嶋会長か佐藤幸彦会長エレクトのほうから提案をしてもらうような形で細則を改定をするというふうな形で、10ドル分だけポリオに対してお金を寄付するというふうなシステムを作っちゃえばいいんじゃないのかと。現状は、ロータリー財団と米山奨学会にはそれぞれ一人当たり年額5千円寄付するとなっている

んです。この時はまだ知恵が足りなくて、ドルベースだということを考えないで、日本円ベースで5千円とかっていうふうにしちゃってはいるんですけど、現状ドルベースの50ドルを寄付するようになっています。ロータリー財団には、一人当たり年次基金に年額50ドルと。ポリオプラス基金に、年額10ドルを寄付をすると。米山奨学会には普通寄付に、一人あたり年額5千円を寄付をすると。このような形の細則改定の提案をしてもらうと、取りあえず財団に対して国際ロータリー、並びに地区のほうから求められている要望の最低限の三分の一は会費から出せるようなシステムになると。あと三分の二のほうは、皆さん方のほうの自主的な主体的な寄付。60名いるところ、今年、金田さんと関谷さんと遠藤敦さんから年次基金に1,000ドルづつご寄付をいただきました。しかも私が本当にばかです。申しわけなかったです。1ドル145円という時に寄付してもらっちゃった。その当時は、151円まで行ったもんですから、安いだろうと思ったんですけど、現状138円まで下がってしまいましたから、もしかすると未だかつてない最高金額でもって寄付を出してもらおう。大変、申し訳ありません。そういうふうになってしまいました。本当は65名ですから、あと3名出すとクリアできるわけです。財団の副委員長の山口さんは、委員長3名出したから俺米山に出すとか言って、米山に出しちゃっているのだから山口さんはだめになっちゃいましたから、会長、幹事ひとつ前向きに検討していただければいいんじゃないのかなと、最後お願いもプラスアルファしていただきたいと思います。ポリオをなくしましょうというふうなことが、ロータリアンの一つの大きい命題になってると共に、新入会員の人はこの単語も覚えてください。「Every Rotarian Every Year」。すべてのロータリアンの皆さんは毎年できれば150ドルを寄付しましょう。毎年しませんか。「Every Rotarian Every Year」。こういうふうな大きい単語がありますから、先程言ったアーチ・クラフ「Doing Good In The World」と一緒に、「Every Rotarian Every Year」。毎年、年次基金に寄付を出してください。以上で、財団委員長の使命を果たさせていただきたいと思いました。ご清聴ありがとうございました。